



# 2024年度 年次報告書



国立大学法人山口大学  
地域レジリエンス研究センター  
防災・減災グループ  
2025年4月

## はじめに

---

2024 年は、地域社会の安全・安心の確保のみならず、地域が持続していくための取り組みが、これまで以上に問われた一年でした。能登半島では、元日に発生した大地震が甚大な被害をもたらし、その復旧の途上にあった同年 9 月、記録的豪雨が北部地域を襲いました。その結果、地震による被害は豪雨によって拡大し、さらに新たな被害も発生し、住まい、医療・介護、教育、産業、観光など、暮らしのあらゆる領域に深刻な影響を長期間及ぼしました。自然災害が「一度の被災」で終わらず、幾度もの被災となり、地域の将来を左右する脅威となり得ることは、災害対応や復旧・復興のあり方を問い直す契機となりました。このように、異なる災害が同一地域で時間的に相前後して発生する「複合災害」は、今後全国各地で起こり得る現実的な脅威であり、私たちに大きな課題を示しています。

こうした状況は、とりわけ超高齢化が進む地方都市の脆弱性を浮き彫りにしています。その背景には、人口減少・超高齢化、医療・福祉体制の逼迫、社会インフラの老朽化、各産業の担い手不足といった課題が相互に影響し合い、地域の安全と持続性を揺るがしている現実があります。この脆弱性に対して、地域社会が強靱さ（レジリエンス性）を高めることがますます重要になっていると考えます。

地域レジリエンス研究センター防災・減災グループは、2023 年 7 月に旧地域防災・減災センターの活動を引き継ぎ、センターの一部門として、文理の多様な分野の知を結集する組織として発足しました。現在、学内外の 32 名の研究者が参画し、それぞれの専門性を活かして多角的な研究・実践を展開しています。また、行政・企業・地域団体・教育機関との協働を深め、地域に寄り添った防災・減災の取り組みを推進しています。

本学の所在する中国地方においても、豪雨災害に伴う土砂災害・河川氾濫の危険性は年々高まっており、それに加えて、南海トラフ地震やそれに伴う内陸地震への備えは喫緊の課題です。災害情報の迅速な共有、避難支援体制の整備、防災インフラの強化に加え、医療・福祉を支える地域コミュニティの支え合いをいかに維持・発展させていくかが、今後の防災・減災に不可欠な視点となっています。

本報告書は、2024 年度における防災・減災グループの活動成果を取りまとめたものです。多くの皆様にお読みいただき、地域での防災・減災の取り組みの一助となれば幸いです。

今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年 4 月吉日  
地域レジリエンス研究センター  
防災・減災グループ長  
鈴木 素之



# 地域レジリエンス研究センター 防災・減災グループ 2024年度 年次報告

## 目次

### はじめに

<b>1. 防災・減災グループの構成</b> .....	3
1-1. メンバー.....	3
1-2. 部門メンバー.....	7
<b>2. 全体活動報告</b> .....	8
2-1. 概要.....	8
2-2. 活動報告.....	8
2-2-1. 講演会.....	8
2-2-2. セミナー.....	8
2-2-4. 国際シンポジウム・セミナー.....	9
2-2-5. 報告会.....	11
2-2-6. 地域・社会貢献活動.....	11
2-2-7. 他団体との連携.....	12
2-2-8. 広報.....	12
<b>3. 部門活動報告</b> .....	13
3-1. 研究成果概要.....	13
<b>4. 個人活動報告</b> .....	17
A. 研究成果 (researchmap URL).....	17
B. 報道関係.....	18
C. 国際交流：外国人の受け入れ状況.....	18
D. 表彰・評価関係.....	18
E. 獲得研究費.....	19

### あとがき

# 1. 防災・減災グループの構成

## 1-1. メンバー

2025年3月31日現在、表1に示すように幅広い分野から33名がメンバーとなっている。

表1 防災・減災グループメンバー（2025年3月31日現在）

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
<b>【センター長】</b>			
鈴木 素之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	時間防災学 博士（工学）	【自然災害部門】部門長 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、斜面災害、 時間防災学
<b>【副センター長】</b>			
牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・教授	公衆衛生看護学 地域看護学 博士（看護学）	【保健衛生部門】部門長 & 【環境・防災教育部門】 災害時保健衛生
榊原 弘之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	地域計画学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】部門長 減災まちづくり、緊急災害調査
<b>【構成員】</b>			
赤松 良久	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【海洋・気象部門】 & 【リスクマネジメント部門】 水・土砂災害、ウイルス
朝位 孝二	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
足立 亮介	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・助教	制御理論 博士（情報科学）	【リスクマネジメント部門】 & 【自然災害部門】 ウイルス

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
網木 政江	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	災害看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
鷗 心治	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	建築学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】 減災まちづくり
大澤 高浩	山口大学大学研究推進機構 先端科学イノベーション研究センター・教授	リモートセンシング工学 博士（工学）	【海洋・気象部門】 部門長 & 【国際防災部門】 & 【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 海洋気象
太田 岳洋	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・教授	応用地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 災害地質学、緊急災害調査
大中 臨	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・助教	環境水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
緒方 彩乃	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 博士（看護学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
楮原 京子	山口大学教育学部・准教授	自然地理学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【リスクマネジメント部門】 時間防災学
斎藤 美矢子	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
軸屋 雄太	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・助教	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】 斜面災害
鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授	気象学 博士（理学）	【海洋・気象部門】 気象学、雲物理学

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
高橋 征仁	山口大学人文学部・教授	社会心理学 文学修士	【環境・防災教育部門】部 門長 防災心理学
田畑 直彦	山口大学埋蔵文化財資料 館・助教	考古学 文学修士	【自然災害部門】 災害と遺跡の立地
辻 智大	山口大学大学院創成科学 研究科 地球圏生命物質科学系専 攻・講師	地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 災害地質学
鶴田 良介	山口大学大学院医学系研 究科 先進救急医療センター・ 教授（センター長）	救急医療 博士（医学）	【保健衛生部門】& 【リス クマネジメント部門】 災害医療、災害時保健衛生
中島 伸一郎	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・准教授	岩盤力学 博士（工学）	【自然災害部門】& 【国際防災部門】 岩盤斜面災害
中正 和久	山口大学大学院創成科学 研究科 電気電子情報系専攻・准 教授	情報工学 博士（工学）	【保健衛生部門】& 【自然 災害部門】 ヘルスケアシステム
中田 幸男	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・教授	地盤工学・土質 力学 博士（工学）	【自然災害部門】 土砂災害
樋口 隆哉	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・教授	環境衛生工学 博士（工学）	【保健衛生部門】 環境質評価、衛生環境
村上 祐里香	山口大学大学院医学系研 究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・助教	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
森 啓年	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】 水・土砂災害、緊急災害調 査
森下 徹	山口大学教育学部・教授	歴史学 博士（文学）	【自然災害部門】 防災授業

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
山本 浩一	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	環境工学 博士（工学）	【国際防災部門】部門長 & 【自然災害部門】&【海洋・気象部門】&【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
山本 晴彦	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授（特命）	環境防災学 博士（農学）	【自然災害部門】&【環境・防災教育部門】 風水害、防災学習、避難計画
吉本 憲正	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】&【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
渡邊 学歩	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地震防災・耐震工学 博士（工学）	【自然災害部門】 地震防災・橋梁耐震・豪雨災害
<b>【学外研究員】</b>			
白水 元	東海大学建築都市学部 土木工学科・特任助教	海岸工学 博士（工学）	【自然災害部門】&【環境・防災教育部門】&【国際防災部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
<b>【事務局】</b>			
山本 裕子	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	環境工学 博士（工学）	【国際防災部門】 衛生環境

【構成員】50音順

## 1-2. 部門メンバー

地域レジリエンス研究センター防災・減災グループは、旧地域防災・減災センター設立当初からの自然災害部門、リスクマネジメント部門、環境・防災教育部門、保健衛生部門の4部門と、増設された国際防災部門、海洋・気象部門のあわせて6部門からなる。各部門のメンバーを表2に示す。

表2 防災・減災グループ部門メンバー（2025年3月31日現在）

自然災害部門 21名	リスクマネジメント部門 6名	環境・防災教育部門 9名	保健衛生部門 8名	国際防災部門 6名	海洋・気象部門 4名
<b>【部門長】</b> 鈴木 素之  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 朝位 孝二 足立 亮介 大澤 高浩 太田 岳洋 大中 臨 楳原 京子 軸屋 雄太 田畑 直彦 辻 智大 中島 伸一郎 中正 和久 中田 幸男 森 啓年 森下 徹 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 渡邊 学歩 白水 元	<b>【部門長】</b> 榊原 弘之  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 足立 亮介 鳩 心治 楳原 京子 鶴田 良介	<b>【部門長】</b> 高橋 征仁  <b>【構成員】</b> 朝位 孝二 牛尾 裕子 大澤 高浩 太田 岳洋 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 白水 元	<b>【部門長】</b> 牛尾 裕子  <b>【構成員】</b> 網木 政江 緒方 彩乃 斎藤 美矢子 鶴田 良介 中正 和久 樋口 隆哉 村上 祐里香	<b>【部門長】</b> 山本 浩一  <b>【構成員】</b> 大澤 高浩 鈴木 素之 中島 伸一郎 白水 元 山本 裕子	<b>【部門長】</b> 大澤 高浩  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 鈴木 賢士 山本 浩一

【構成員】50音順

## 2. 全体活動報告

### 2-1. 概要

地域レジリエンス研究センター防災・減災グループでは、2024年度に国内向けの防災・減災講演会1回、時間防災学セミナー1回、報告会1回、研修1回、国際シンポジウム・セミナー2回を開催し、合計765名が参加した。詳細を2-2に示す。

### 2-2. 活動報告

#### 2-2-1. 講演会

最新の防災・減災の知識を広く一般に提供することを目的として、防災・減災に関わる様々な分野の専門家を講師に招いて行う「防災・減災講演会」シリーズを昨年引き続き開催した。2024年度は表3に示すとおり第10回としてコミュニティ防災に長く取り組んでこられた室崎益輝氏を講師に招いて開催し（主催は地域レジリエンス研究センター、共催は自然災害研究協議会中国地区部会、特定非営利活動法人応用斜面工学研究会）、民間企業、大学、その他一般から合計337名が参加した。本講演会は公益社団法人土木学会認定CPD（継続教育）プログラムとなっており、希望する受講者には単位認定の受講証明書を発行し、技術者の継続教育にも貢献した。

表3 2024年度「防災・減災講演会」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第10回	2024年11月18日 10:30-12:00 常盤キャンパス D11講義室での講演をWeb配信 (Zoomウェビナー)	講師： 室崎 益輝 氏（神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授） 演題：災害の時代におけるコミュニティ防災のあり方 <a href="https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/6311/index.html">https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/6311/index.html</a>	337名（内 対面32 名）

#### 2-2-2. セミナー

昨年度に引き続き、表4に示すとおり「時間防災学\*セミナー」を1回開催し、民間企業、大学、その他一般から256名が参加した。本セミナーは防災・減災講演会と同様、土木学会認定CPDプログラムとなっている。

#### ※時間防災学とは

本学が掲げる「時間学」と「防災学」を融合し、100～1000年の時間スケールで災害の起こり方と防災のあり方を考究する学術領域。工学、理学だけでなく歴史学、考古学、地理学、社会学、経済学、農学、医学など様々な分野の研究者を集め、文理融合した新しい防災研究領域として開拓していくことを目指している。

表 4 2024 年度「時間防災学セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 7 回	2024 年 6 月 25 日 16:00-17:10 Web 開催 (Zoom ウェビナー)	講師：田口 岳志 氏 (秋田大学大学院理工学研究科 助教) 演題：時間防災学の視点で読み解く秋田県雄物川流域の洪水痕跡について <a href="https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/5151/index.html">https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/5151/index.html</a>	256 名

#### 2-2-4. 国際シンポジウム・セミナー

英国ロンドン大学 (UCL) と共同で第 4 回目となる YU-UCL シンポジウムを開催した。英国と日本を中心に 40 名が参加した。また、2021 年 3 月、2022 年 3 月、2024 年 3 月に引き続き、第 4 回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー (The 3rd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment) を開催し、58 名が参加した。詳細を以下に示す。

#### ■ The 4th YU-UCL Symposium "Does Climate Change Increase Disaster?"

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

実施日時・場所：2025 年 2 月 27 日 18:00-20:50 Web 開催 (Zoom ミーティング)

共催：Institute for Risk and Disaster Reduction (IRDR), University College London、山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センター

参加者数：40 名

講演者および演題：

1. David Alexander, University College London  
"How Will Emergency Response Cope with the Effects of Climate Change in the Future"
2. Koichi Yamamoto, Yamaguchi University  
"Coastal Disasters and Carbon-Related Issues in Tropical Coastal Peatland"
3. David Rubens, Institute of Strategic Risk Management (ISRM)  
"Climate Change and Disaster Risk Reduction: Mapping a Paradigm Change"
4. Wadeisor Rukato, Partnerships and Project Lead at Howden Group  
"Cities and the Climate Crisis: Public-Private Partnerships for Urban Resilience"
5. Ilan Kelman, University College London, and University of Agder  
"Climate Change as a Hazard Influencer"
6. Andi Besse Rimba, Japan International Cooperation Agency (JICA) Ogata Research Institute  
"Global Assessment of the Impact of Climate Mitigation on Water-related SDG Targets"
7. Lisa Guppy, University College London  
"Is Climate Change a 'Threat Multiplier' in Protracted Crises?"
8. Husniyah binti Mahmud, United Nations University (UNU), and Yamaguchi University  
"Analysis of the Social Impact of Meteorological Drought on Peninsular Malaysia Based on the

■ 第4回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー (The 4th International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment)

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/7314/index.html>

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/en/info/447/index.html>

実施日時・場所：2025年3月1日 9:00-16:05 Web開催 (Zoom ミーティング)

共催：山口大学工学部社会建設工学科

参加者数：58名 (日本、インドネシア、東ティモール、ベトナム、ポルトガル、アメリカ、ラオスの7か国)

講演者および演題：

【特別セッション：熱帯沿岸泥炭地における災害耐性と環境保護に関する国際協力について】

1. Dr. Sigit Sutikno, Center for Peatland and Disaster Studies (CPDS), University of Riau  
“Peatlands on Small Islands: Lessons Learned from the Hydrological Degradation and Restoration in Eastern Sumatra, Indonesia”
2. Prof. Koichi Yamamoto, Department of Civil and Environmental Engineering, Faculty of Engineering, Yamaguchi University  
“International Collaboration Research on Peatland Coast Disaster and Carbon Export in Bengkalis Island”
3. Mr. Yusaku Yoshii, Graduate School of Asian and African Area Studies (ASAFAS), Kyoto University and Prof. Osamu Kozan, Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University  
“Formation of Tidal Flats in the Northern Coastal Region of Riau Province, Indonesia”
4. Dr. Mariko Ogawa, Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University  
“Atmospheric and Hydro-meteorological Observation in Tropical Peatlands in Indonesia and Its Practical Application to Fire Prevention”

【山口大学卒業生・在学生による口頭発表セッション】

1. Prof. Masahiko Sekine (Professor Emeritus, Yamaguchi University, and Advisor for Establishing a Graduate School of Engineering at the UNTL)  
“The Role and Current Status of the Graduate School of Engineering at Universidade Nacional Timor Lorosa'e”
2. Mr. Oktoviano Viegas Tilman de Jesus (Yamaguchi University)  
“Understanding Geological Hazards Linked to Bobonaro Mélange Lithology towards the Infrastructural Development in Timor-Leste”
3. Mr. Elfrido Elias Tita (Yamaguchi University)  
“Initiative of using Digital Twin-BIM technology for Bridge management in Timor-Leste”
4. Ms. Joantina Belo Ornai (Yamaguchi University)  
“Probe Development for Measuring Capillary Fringe Groundwater Flow Velocity”
5. Ms. Ivanna Januario Pereira (Yamaguchi University)  
“Design Fabrication and Testing of a 3D Printer Polylactic Acid (PLA) Filament Recycle System”

6. Ms. Ho Thanh Truc (Yamaguchi University)  
“Investigating the Robust Pitch Angle for Constant-Pitch Flight Design in Unmanned Aerial Vehicle-Based Photogrammetry Using Structure-from-Motion Without Ground Control Points”
7. Assoc. Prof. Tran Thanh Nhan (University of Sciences, Hue University, Vietnam)  
“Multiple challenges for the sustainable development of coastal areas: a case study of Tam Giang - Cau Hai lagoon and Central Vietnam.”
8. Dr. Le Van Tuan (University of Sciences, Hue University, Vietnam)  
“Isolation, biocharacterization, and wastewater treatment potential of purple photosynthetic bacterial strain from Lap An Lagoon, Vietnam”

#### 2-2-5. 報告会

2024年1月1日に発生した能登半島地震を受けて、2025年5月に令和6年能登半島地震災害調査報告会をオンライン開催し、被災地で調査・支援を行った防災・減災グループのメンバーが調査報告を行った。大学、民間企業、その他一般から189名が参加した。詳細を以下に示す。

##### ■ 令和6年能登半島地震災害調査報告会

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

実施日時・場所：2024年5月7日 15:00-17:05 Web開催（Zoom ウェビナー）

主催：山口大学地域レジリエンス研究センター

参加者数：189名

講演者および演題：

- 「令和6年能登半島地震による地盤被害の報告」鈴木 素之（山口大学大学院創成科学研究科）
- 「令和6年度能登半島地震で発生した斜面崩壊の地形的特徴と現地調査報告」瀧本真理、太田岳洋（山口大学大学院創成科学研究科）
- 「地震動と橋梁構造物等の被害について」渡邊学歩（山口大学大学院創成科学研究科）
- 「令和6年能登半島地震における七尾市中心市街地の建物被害」楢原京子（山口大学教育学部）
- 「能登地震 DMAT 派遣」（録画による発表）鶴田良介（山口大学大学院医学系研究科）
- 「珠洲市大谷地区避難所支援」網木政江（山口大学大学院創成科学研究科）

#### 2-2-6. 地域・社会貢献活動

研究とあわせて地域・社会貢献活動の一環として、以下のとおりまちの減災ナース「スキルアップ研修」を行った。詳細を以下に示す。その他、メンバーが高校生を対象とした講義や災害発生時の現地調査などを行うとともに、自治体などに助言を行っている。

##### ■ まちの減災ナース「スキルアップ研修」

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

2024年11月23日、宇部市内のまちの減災ナースを対象として「スキルアップ研修」を開催した。

実施日時・場所：2024年11月23日 13:30-16:30 山口大学工学部「志」イノベーション道場

参加者数：9名

研修内容：

1. オンライン講演「福井県永平寺町におけるまちの減災ナースの取組み—福祉との連携と仕組みづくり—」（日本災害看護学会認証まちの減災ナース指導者 花房八智代氏）
2. 情報提供「宇部市厚南地区避難経路検索アプリの開発」（山口大学大学院創成科学研究科 山本浩一教授）
3. ワールドカフェ「減災活動・講演で得たヒント」（山口大学大学院医学系研究科 牛尾裕子教授）

## 2-2-7. 他団体との連携

自然災害研究協議会中国地区部会の研究発表会を以下のとおり共催した。

### ■ 自然災害研究協議会中国地区部会

自然災害研究協議会中国地区部会がオンライン開催する2025年2月22日の「自然災害研究協議会中国地区部会令和6年度研究発表会」を共催した（参加者人数115名）。また事務局として研究発表会の運営業務および研究論文集の作成を行った。研究発表会では大学、企業から多岐の内容にわたる19件の一般発表とともに、国立研究開発法人防災科学技術研究所上席研究員、極端気象災害研究領域水・土砂防災研究部門副部門長の酒井直樹氏による特別講演「令和6年能登半島地震における地震と豪雨による連鎖型斜面災害の特徴とその課題」が行われた。

開催報告：[https://www.ndrc-chugoku.org/meeting/report\\_2024.html](https://www.ndrc-chugoku.org/meeting/report_2024.html)

研究論文集：<https://www.ndrc-chugoku.org/proceedings/ronbun11.html>

## 2-2-8. 広報

昨年度に引き続き、地域レジリエンス研究センター防災・減災グループのホームページ、Facebookにてイベントの広報や報告などを行った。

日本語 HP：<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index.html>

英語 HP：[https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index\\_eng.html](https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index_eng.html)

Facebook：<https://www.facebook.com/Yamaguchi.Univ.CLDPM>

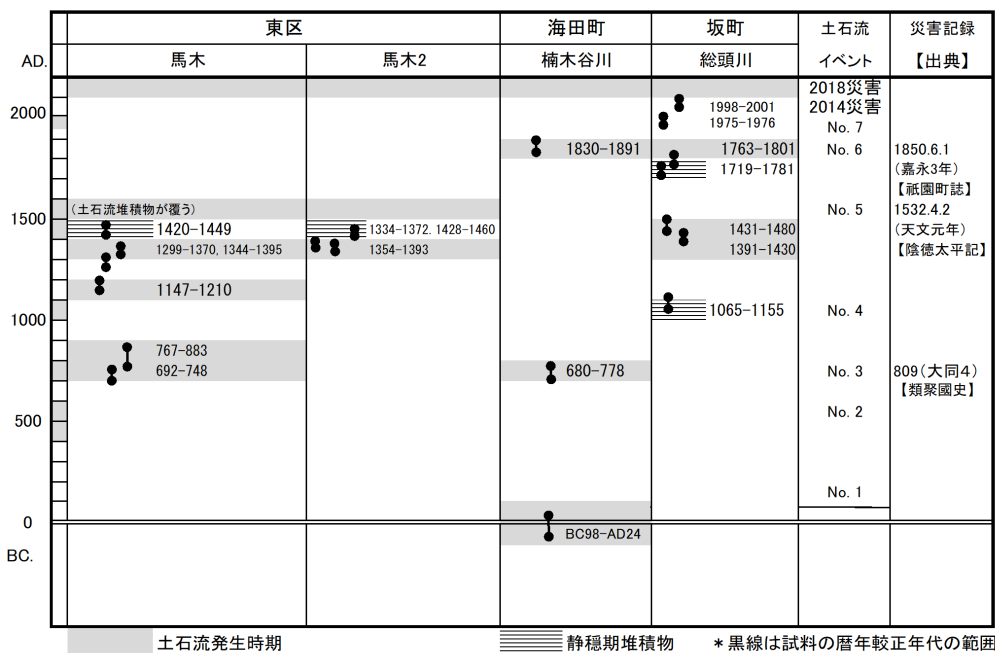
### 3. 部門活動報告

#### 3-1. 研究成果概要

##### 1) 被災ポテンシャルの歴史の変遷の把握（自然災害部門）

被災ポテンシャルの歴史の変遷を把握するため、土石流・斜面崩壊を対象として、過年度から継続して現地調査、堆積物の年代、地形・地質条件の検討を進めた。2024年度は、これまでに各地で取得してきた年代測定結果、露頭観察記録、地形・地質に関する調査資料を再整理し、土砂堆積速度や発生履歴の評価を進めるとともに、地形変化の把握に向けた解析を実施した。広島市東区馬木地区の花崗岩地域では、平成30年7月豪雨で土石流が発生した溪流を対象として、過去の土石流堆積物の年代と層序の再検討を行い、土石流発生時期、発生間隔、土砂堆積速度の評価を進めた。その結果、当地では複数時期に土石流が発生しており、発生間隔は100～400年程度の幅をもつこと(表5)、またシルト層や腐植土層の形成速度は数mm/年程度であることを確認した。これらの結果は、溪流内に不安定土砂が徐々に再堆積し、時間の経過とともに土石流発生条件が再び整っていく過程を示すものであり(図1)、被災ポテンシャルの時間的変遷を考える上で重要な知見である。さらに、山形県最上川流域、秋田県雄物川流域、能登半島北部、ベトナム北部など、地質条件や災害履歴の異なる地域において継続的に現地調査を行い、堆積物の特徴、発生場の地形・地質条件、土砂移動の痕跡の比較検討を進めた。加えて、ALOS-2による差分干渉SAR解析、光学衛星画像、LiDAR計測等を用いて、豪雨や地震後の地表変動や土砂移動の痕跡把握を試みた。以上のように、過去の堆積履歴、発生履歴、地形変化の分析を通じて、土石流・斜面崩壊に関わる被災ポテンシャルの歴史の変遷に関する知見を蓄積した。

表5 広島市東区，海田町，坂町の土石流発生年表（表は下記の文献より引用）



【引用文献】 鈴木素之，松木宏彰，片岡 知：平成30年7月豪雨における土石流発生溪流の土砂堆積速度，日本地すべり学会第62回（2023年度）研究発表会，P-30，2023。

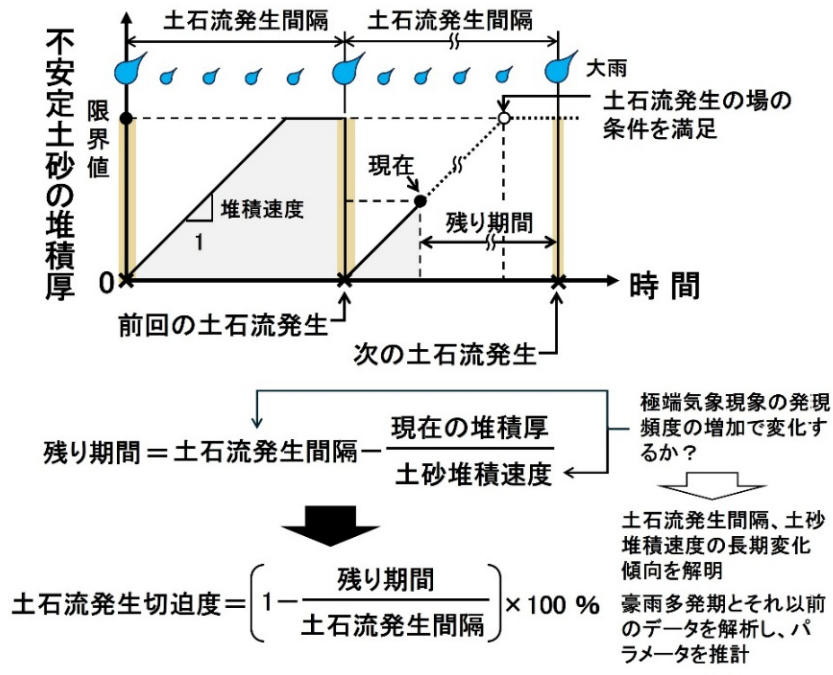


図1 土石流発生予測モデル

2) デマンド交通を活用した災害時避難支援の実現に向けた課題検討(リスクマネジメント部門)

2024年度は、避難支援の実効性を確認するために、まず地域の高齢者を対象に車両による避難訓練を実施した。その結果に基づいて、避難支援所要時間の推定を試みた。

避難訓練では、デマンド交通を活用した避難支援の所要時間（呼びかけ・乗車に要する時間、移動に要する時間、降車・避難場所までの移動に要する時間）の計測を行った。また、高齢者を呼びかける際の具体的なイメージを定めることも目的とした。訓練は2024年7月28日に宇部市厚南地区の中野エリア（10:00～11:30）および上開作エリア（13:00～16:30）で行われ、避難先は浸水想定区域外にある厚南小学校とした。中野エリアでは、自宅前まで迎えに行くパターン①（図2左）で実施した。一方、上開作エリアでは、自宅前まで迎えに行くパターン①と、集合場所（上開作自治会館前）に迎えに行くパターン②（図2右）を実施した。電話連絡は、パターン①では自宅到着時、パターン②では集合場所到着時に順次行い、避難訓練を進めた。

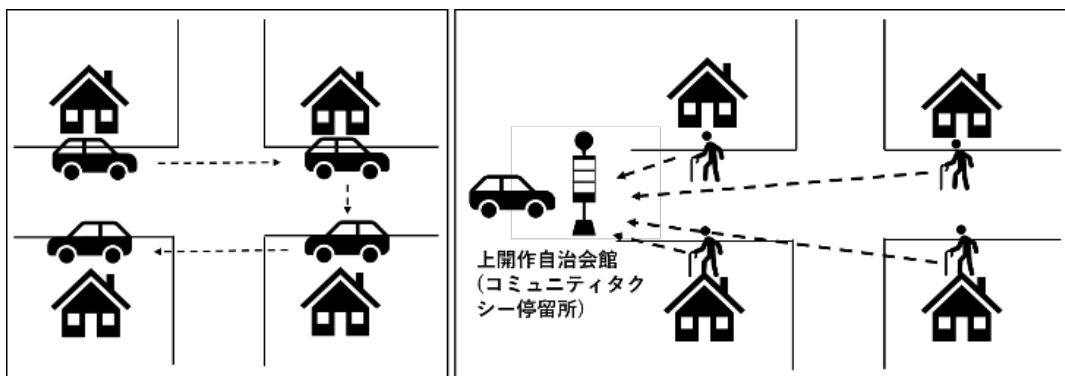


図2 呼びかけパターン①（左）と②（右）の概略図

この避難訓練で得られた各行動の所要時間のデータを用いて、上開作エリアで実際にデマンド交通による避難支援を実施することを想定して所要時間と避難者数の関係について推定を試みた。試算に当たっては、2023年度実施のアンケート調査及び本年度実施の避難訓練で得た実測値を用いた。

試算の結果、上開作エリアの避難需要117名を輸送するには、通常タクシーで30往復、ジャンボタクシーで13往復が必要で、所要時間は通常タクシーが約12時間20分、ジャンボタクシーが約6時間50分と試算された。特に通常タクシーでは対応が困難であることが明らかになった。台風接近時には避難時間を確保できる可能性があるが、集中豪雨時には短時間で警戒レベル4に移行する可能性があり、避難支援時間が限られる。これに対し、以下の方策が有効と考えられる。

- A. 災害時の車両および人員の追加：輸送能力を向上させるため、多くの車両を追加導入し、ドライバーの確保を進める必要がある。ただし、他エリアへの影響も考慮する必要がある。
- B. 避難支援対象者の絞り込み：避難支援の必要がより高い住民を優先的に支援対象とする方針が必要である。

### 3) 防災福祉コミュニティづくりの支援とモデル開発（保健衛生部門）

保健衛生部門では、2022年から2023年にかけて宇部市で「まちの減災ナース育成研修」を実施し、計30名を育成した。本研修は、「地区防災計画制度の理念に基づく地区防災福祉コミュニティ形成」を介入（EBI）とし、「地区防災関係住民との協働によるまちの減災ナース育成研修」を戦略とした実装研究のフレームワークを用いて計画・実施・評価を行っている。2024年度は、2022年度に実施した宇部市3地区（藤山・鶴の島・新川）の研修2年後の評価のため、地区防災関係住民を対象にアンケート調査とインタビュー調査を実施した。また、下関市長府地区の研修2年後の評価を目的に行った調査結果の分析により、「地区防災関係住民との協働によるまちの減災ナース育成研修」の効果として、住民の安心感獲得や防災減災活動の推進に寄与した一方、まちの減災ナースの活動認知や協働体制の構築に課題があることを明らかにした。この成果は、日本看護科学学会および日本公衆衛生看護学会学術集会で演題発表した。2025年度は、2023年度に研修を実施した宇部市2地区（厚南・厚東地区）を対象に同様の調査を実施予定である。

まちの減災ナースのネットワーク化と活動支援の点では、2024年10月に山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループホームページ内に「まちの減災ナース特設ページ」※を開設した。本ページでは、地区防災福祉コミュニティ形成プロジェクトのオリジナル紹介動画、まち減災ナースの紹介等による市民への広報に加え、「まちの減災ナース専用ページ」を設け、育成研修で使用した資料や活動記録様式の資料提供を開始した。さらに2025年1月にはLINEグループ「まちの減災ナースうべ」を開設し、減災活動や研修に関する情報共有、地区を超えた仲間づくり、活動の活性化を図っている。2024年11月には、宇部市のまちの減災ナース（研修修了生）を対象としたスキルアップ研修を開催した。福井県のまちの減災ナース指導者を招いた講演やワールドカフェ形式の意見交換を通じ、活動基盤の構築や要配慮者支援の実際を学ぶ機会を提供した。研修修了生のほか、まちの減災ナースの活動に関心をもつ看護職の参加もあり、ネットワークの拡大にも繋がった。2025年度は、要配慮者（避難行動要支援者）の避難支援に焦

点を当て、まちの減災ナースや地区防災福祉関係者等と情報・意見交換を重ねながら、避難訓練の実施を視野に入れた具体的な検討を進めていく。

※ 山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ. まちの減災ナース特設ページ, [https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldp/nurse\\_top.html](https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldp/nurse_top.html)



写真1 防災福祉コミュニティ形成プロジェクトの紹介動画画面



写真2 スキルアップ研修の様子

#### 4) 防災に携わる海外研究者とのネットワークの継続（国際防災部門）

国際防災部門では昨年度に引き続き、第4回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー（The 4th International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment）を開催した。特別セッションでは「熱帯沿岸泥炭地における災害耐性と環境保護に関する国際協力について」と題して、泥炭地研究を行うインドネシアおよび日本の研究者が発表を行い、今後の研究に向けての議論が行われた。また山口大学卒業生・在学生による口頭発表セッションでは、東ティモール、ベトナムからの留学生および現在ベトナムの大学で活躍する卒業生が発表を行った（セミナーの詳細は2-2-4参照）。

また、これまで活発な交流が行われている英国ロンドン大学（UCL）の Institute for Risk and Disaster Reduction（リスク&防災研究所）と共催で“The 4th YU-UCL Symposium "Does Climate Change Increase Disaster?"”を開催し、UCLと山口大学以外の研究者も参加して、気候変動と災害の関連について研究発表と意見交換が行われた。

インドネシア・リアウ大学、ブンカリス高専との研究協力は昨年到现在も継続中であり、インドネシアブンカリス島での泥炭崩壊に関する現地調査を共同で実施した。今後も継続して防災に携わる海外研究者とのネットワークを維持していく予定である。

## 4. 個人活動報告

メンバーの活動について示す。学術雑誌等、国際会議における発表、国内学会・シンポジウム等における発表、学会運営等は、researchmap (<https://researchmap.jp/>) に掲載のため、Aには研究成果として各メンバーの Research map ページの URL を示す。Bは報道関係、Cは国際交流、Dは表彰・評価関係、Eは獲得研究費について示す。

### A. 研究成果 (researchmap URL)

氏名	researchmap URL
鈴木 素之	<a href="https://researchmap.jp/taishin-ken">https://researchmap.jp/taishin-ken</a>
牛尾 裕子	<a href="https://researchmap.jp/yushio-20201022">https://researchmap.jp/yushio-20201022</a>
榊原 弘之	<a href="https://researchmap.jp/read0054929">https://researchmap.jp/read0054929</a>
赤松 良久	<a href="https://researchmap.jp/yakamats">https://researchmap.jp/yakamats</a>
朝位 孝二	<a href="https://researchmap.jp/ASAIKoji">https://researchmap.jp/ASAIKoji</a>
足立 亮介	<a href="https://researchmap.jp/Ryosuke-Adachi">https://researchmap.jp/Ryosuke-Adachi</a>
網木 政江	<a href="https://researchmap.jp/7000023523">https://researchmap.jp/7000023523</a>
鷗 心治	<a href="https://researchmap.jp/s-ikaruga">https://researchmap.jp/s-ikaruga</a>
大澤 高浩	<a href="https://researchmap.jp/7000021888">https://researchmap.jp/7000021888</a>
太田 岳洋	<a href="https://researchmap.jp/KujuYufu_1964">https://researchmap.jp/KujuYufu_1964</a>
大中 臨	<a href="https://researchmap.jp/Nozomu_Onaka">https://researchmap.jp/Nozomu_Onaka</a>
緒方 彩乃	<a href="https://researchmap.jp/7000022060">https://researchmap.jp/7000022060</a>
楮原 京子	<a href="https://researchmap.jp/1051-K">https://researchmap.jp/1051-K</a>
斎藤 美矢子	<a href="https://researchmap.jp/sai-m">https://researchmap.jp/sai-m</a>
軸屋 雄太	<a href="https://researchmap.jp/jikuya">https://researchmap.jp/jikuya</a>
鈴木 賢士	<a href="https://researchmap.jp/7000022367">https://researchmap.jp/7000022367</a>
高橋 征仁	<a href="https://researchmap.jp/read19990710">https://researchmap.jp/read19990710</a>
田畑 直彦	<a href="https://researchmap.jp/read0188512">https://researchmap.jp/read0188512</a>
辻 智大	<a href="https://researchmap.jp/tsujitomo">https://researchmap.jp/tsujitomo</a>
鶴田 良介	<a href="https://researchmap.jp/Okiube12-38">https://researchmap.jp/Okiube12-38</a>
中島 伸一郎	<a href="https://researchmap.jp/7000022373">https://researchmap.jp/7000022373</a>
中正 和久	<a href="https://researchmap.jp/kazuhisa.nakasho">https://researchmap.jp/kazuhisa.nakasho</a>
中田 幸男	<a href="https://researchmap.jp/YUKIO_NAKATA">https://researchmap.jp/YUKIO_NAKATA</a>
樋口 隆哉	<a href="https://researchmap.jp/read0053759">https://researchmap.jp/read0053759</a>

氏名	researchmap URL
村上 祐里香	<a href="https://researchmap.jp/m-yurika">https://researchmap.jp/m-yurika</a>
森 啓年	<a href="https://researchmap.jp/hirotoshi-mori">https://researchmap.jp/hirotoshi-mori</a>
森下 徹	<a href="https://researchmap.jp/7000021919">https://researchmap.jp/7000021919</a>
山本 浩一	<a href="https://researchmap.jp/jo4gjl-jf8afn">https://researchmap.jp/jo4gjl-jf8afn</a>
山本 晴彦	<a href="https://researchmap.jp/read0185153">https://researchmap.jp/read0185153</a>
吉本 憲正	<a href="https://researchmap.jp/nyoshi_YU">https://researchmap.jp/nyoshi_YU</a>
渡邊 学歩	<a href="https://researchmap.jp/gakuho_093">https://researchmap.jp/gakuho_093</a>
白水 元	<a href="https://researchmap.jp/shiro567">https://researchmap.jp/shiro567</a>

## B. 報道関係

### TV 放送

放送日	放送局	番組名	出演者
2024 年 4 月 18 日	山口朝日放送	「J チャンやまぐち」 「つながり」が災害の備えに まちの減災ナ ース <a href="https://www.youtube.com/watch?v=jp_F8TBJG7g">https://www.youtube.com/watch?v=jp_F8TBJG7g</a>	網木政江

## C. 国際交流：外国人の受け入れ状況

なし

## D. 表彰・評価関係

### 赤松 良久・大中 臨

環境水理部会研究集会 2024 in 奄美大島 優秀発表賞／深層学習を用いた中国地方一級水系における河川水温予測モデルの高度化に関する検討／福丸 大智・赤松 良久／2024.5

第 76 回令和 6 年度土木学会中国支部研究発表会 若手優秀発表者賞／令和 5 年梅雨前線における厚狭川流域中流域の河川氾濫の実態解明／滝山 路人・大中 臨・福丸 大智・江口 翔紀・宮園 誠二・赤松 良久／2024.6

第 76 回令和 6 年度土木学会中国支部研究発表会 若手優秀発表者賞／水上・空中両用ドローンと機械学習を組み合わせた効率的な湖沼底質識別手法の開発／大中 臨・赤松 良久・中村 亮・安木 進也／2024.6

応用生態工学会第 27 回 (2024) さいたま大会 優秀発表賞／江の川浜原ダム下流における効果的な土砂還元方法の検討／大中 臨・山下 桃汰・丸山 啓太・赤松 良久／2024.9.19

### 森 啓年

第 59 回地盤工学研究発表会 優秀論文発表賞／分布型光ファイバセンサを用いたせん断ひずみ

測定の精度検証／友藤奈津歩，中村仁美，浅田航介，森啓年，川野健一，永谷英基，安部利亮  
／第 59 回地盤工学研究発表会，23-10-3-08／2024.7

土木学会全国大会第 79 回年次学術講演会 優秀講演者／分布型光ファイバセンサを用いた河川  
堤防モニタリング精度に関する一考察／中村仁美，森啓年，佐古俊介，加未穰，檜山孔聖，榊  
谷麻衣，永谷英基，川野健一，今井道男／土木学会第 79 回年次学術講演会，III-350／2024.9

## E. 獲得研究費

### 【科研費】

#### 鈴木 素之

科研費・挑戦的研究（萌芽），代表者，土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土  
砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30 – 2025-03-31

#### 牛尾 裕子

科研費・基盤研究（C），代表者，「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の  
思考を深める対話法，2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：石丸 美奈），認知症を有する人中心のケアリング・コ  
ミュニティ協働デザインのツール作成と検証，2021-04-01 – 2025-03-31

#### 榊原 弘之

科研費・基盤研究（C），代表者，地方都市圏における持続可能な公共交通体系構築のための合意  
形成プロセスに関する研究，2023-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究（A），分担者（代表者：谷本 圭志），過疎地域公共交通の統合的ビジネスモデ  
ルの構築に関する研究，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：福山 敬），立地とアクセシビリティの評価による地方  
中小都市のコンパクト化の進捗の分析，2021-04-01 – 2025-03-31

#### 赤松 良久

科研費・挑戦的研究（開拓），代表者，人工 DNA トレーサーによる流域の水・土砂動態の可視化，  
2022-06-30 – 2025-03-31

#### 朝位 孝二

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：山本晴彦），水害常襲地における微地形情報と実績浸水  
深に基づく洪水解析による水害リスクの再評価，2022-04-01 – 2025-03-31

#### 足立 亮介

科研費・若手研究，代表者，IoT による最適スケールアップのための分散システム設計理論の構築，  
2024-04-01 – 2027-03-31

#### 鷗 心治

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：岡松 道雄），境界領域における建築インターフェイス  
の一体型滞在快適性評価に関する研究，2022-04-01 – 2026-03-31

#### 大澤 高浩

科研費・特別研究員奨励費，代表者，マレーシア農村部における水害および気候変動における水  
供給について，2022-11-16 – 2025-03-31

#### 太田 岳洋

科研費・挑戦的研究（萌芽），分担者（代表者：鈴木 素之），土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30 – 2025-03-31

#### 緒方（木嶋）彩乃

科研費・基盤研究（C），代表者，ネグレクトの支援方針の意思決定における支援者特性アセスメントツールの開発と検証，2023-04-01 – 2027-03-31

#### 楢原 京子

科研費・基盤研究（C），代表者，鮮新世以降の地形発達に着目した日本海東縁沿岸部に潜む活構造の解明，2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・挑戦的研究（萌芽），分担者（代表者：鈴木 素之），土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：後藤 秀昭），海底段丘と海底活断層から構築する相模トラフ周辺の新たな地殻変動モデル，2022-04-01 – 2025-03-31

#### 斎藤 美矢子

科研費・基盤研究（C），代表者，公衆衛生看護（保健師）業務において個別課題から地域課題へ展開する OJT モデルの開発，2024-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：伊東 美佐江），妊娠初期から始めるうつ病への移行を防ぐセルフモニタリングの実証研究，2023-04-01 – 2027-03-31

#### 高橋 征仁

科研費・基盤研究（C），代表者，庇護主義を超えてーポストコロナ時代のリスク意識に関する国際比較研究，2021-04-01 – 2025-03-31

#### 田畑 直彦

科研費・基盤研究（C），代表者，弥生時代高地性集落研究の原点を見直す，2020-04-01 – 2025-03-31

#### 辻 智大

科研費・基盤研究（C），代表者，海は火砕流の移動を抑制するか？阿蘇 4 火砕流分布と海域の比較，定置温度からの制約，2022-04-01 – 2025-03-31

#### 中島 伸一郎

科研費・基盤研究（B），代表者，小規模分散型治水施設としての舗装構造の治水効果と力学耐久性の検証，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：緒方 奨），岩盤内亀裂生成後の長期透水性変化の実像を導くマルチスケールシミュレータの開発，2022-04-01 – 2026-03-31

#### 中正 和久

科研費・基盤研究（C），代表者，集合論ベースの定理証明支援系の言語仕様の刷新，2024-04-01 – 2027-03-31

#### 中田 幸男

科研費・基盤研究（C），代表者，国際ラウンドロビン解析による地盤工学の不連続体解析を検証できるベンチマークの開発，2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：吉本 憲正），二酸化炭素の混合物質ハイドレートによる海底地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 米田 純), 3次元構造フィルターによる新たな土粒子濾過技術の開発, 2023-04-01 – 2027-03-31

#### 樋口 隆哉

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 悪臭発生現場における迅速・正確な臭気モニタリングのための嗅覚測定パッケージの作製, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 村上 祐里香

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 牛尾 裕子), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 森下 徹

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 西国の「城下町域」に関する基礎的研究, 2022-04-01 – 2026-03-31

#### 山本 晴彦

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 水害常襲地における微地形情報と実績浸水深に基づく洪水解析による水害リスクの再評価, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 吉本 憲正

科研費・基盤研究 (B), 代表者, 二酸化炭素の混合物質ハイドレートによる海底地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル, 2023-04-01 – 2027-03-31

日本学術振興会 二国間交流事業共同研究, 中国との共同研究, 代表者, 分解及びせん断時の深海底メタンハイドレート堆積物の粒子破砕メカニズム, 令和 5-7 年度

#### 白水 元

科研費・若手研究, 代表者, 干出時の地下水位変動による底質性状変化が干潟の地形変化に与える影響の解明, 2021-04-01 – 2025-03-31

#### 【受託研究】

#### 赤松 良久

国土交通省中国地方整備事務局山口河川国道事務所, 流域治水×グリーンインフラを実現する治水・環境の調和型河川管理法に関する研究, 2023/4/3~2026/3/31

国土交通省中国地方整備事務局三次河川国道事務所, オオカナダモ繁茂管理に関する研究, 2023/4/1~2026/3/31

国土交通省中国地方整備事務局浜田河川国道事務所, 江の川における置き土が環境に与える影響についての研究, 2023/4/1~2026/3/31

#### 【共同研究】

#### 赤松 良久

九州大学共同研究 (河川砂防分担), 大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究, 2020/6 – 2026/3

山口県官学共同研究, 榎野川における気候変動を考慮した流域治水の検討, 令和 6~8 年度

日本工営株式会社共同研究, パッシブサンプリングツールの実用化に向けた調査仕様と分析系の構築, 令和 6 年~

大林組・日本工営共同研究，環境 DNA を活用したグリーンインフラの機能評価」令和 6 年度  
東芝インフラシステムズ株式会社・宇部市共同研究，社会実装に向けた下水サーベイランス体制  
の構築，令和 6 年度

基礎地盤コンサルタンツ株式会社共同研究，「電脳粒度」の河床材料調査への可能性検討，令和 6  
年度

#### 榊原 弘之

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社共同研究，日常移動および災害時避難を支援するフェー  
ズフリーMaaS の実装可能性検討，令和 6 年度

宇部市交通局共同研究，バスロケーションシステムデータによる運用計画改善の研究，2024/9 -  
2025/3

#### 【その他の研究助成】

鈴木 素之・榊原 弘之・牛尾 裕子・赤松 良久・齋藤 美矢子・網木 政江・緒方 彩乃・  
村上 祐里香・鶴田 良介・山本 浩一・吉本 憲正・森 啓年・楳原 京子

鹿島学術振興財団特定テーマ研究助成，超高齢化時代におけるシン・ウベ方式によるレジリエ  
ンスシティの創成，2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

#### 牛尾 裕子

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団，代表者，へき地の地域包括ケアを担う看護人材育成・  
確保循環型システム構築に向けた現状調査，2023 年 8 月～2025 年 9 月

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（分担），社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的  
ネットワークの構築，孤立孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイ  
スメイキング，2023.10 - 2027.3

#### 牛尾 裕子・網木 政江

社会技術研究開発センター，分担者（代表者：内平 隆之），孤立・孤独予防に資する近隣社会環  
境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング，2023 年 10 月～2027 年 3 月

#### 赤松 良久

SBIR 建設技術研究開発助成制度，DNA トレーサーによるインフラ施設長寿命化のための不明  
水・漏水起源推定手法の開発，令和 6-7 年度

2024 河川基金助成事業，豪雨への危機感醸成のための 3D・R 降雨体験コンテンツ開発

旭酒造記念財団研究助成，生物多様性ネットゲインのための流域網羅的な魚類・昆虫多様性評価，  
令和 6 年度

日本国土開発未来研究財団学術研究助成，インクルーシブ防災の実現に向けたフェーズフリー高  
齢者避難支援システムの構築，2024.10-2027.9

#### 太田 岳洋・辻 智大

日本国土開発未来研究財団学術研究助成，定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法  
の開発，2021 年 10 月～2024 年 9 月

#### 辻 智大

日本国土開発未来研究財団学術研究助成，定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法  
の開発，2021.10 - 2024.9

文部科学省次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト 課題 C「火山噴火の予測技術の開発」,  
噴火履歴調査による火山噴火の中長期予測と噴火推移調査に基づく噴火事象系統樹の作成,  
2019 – 2026.3

#### **森 啓年**

(一財) 中国建設弘済会, 技術開発支援事業助成, 代表者, 海岸・河川沿い道路の空洞及び陥没の  
発生・発達過程に関する研究, 2023年4月1日～2025年3月31日

(公財) 能村膜構造技術振興財団 助成金, 代表者, 気候変動に対応する越水に対して「粘り強  
い河川堤防」に使用される吸出し防止材の経年変化と堤防性能の関係, 2024年4月1日～2026  
年3月31日

#### **渡邊 学歩**

(一財) 日本建設情報総合センター研究助成, 地域企業の建設 DX 推進人材育成のためのリスキ  
リング教育実践, 2023年10月 - 2024年9月

## あしがき

---

山口大学地域防災・減災センターは、2023年度、山口大学地域レジリエンス研究センターに統合され、新たに「山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ」となりました。今年度はその2年目となりました。

2024年度、防災・減災グループでは、防災・減災講演会1回、時間防災学セミナー1回、国際シンポジウム・セミナー2回を開催いたしました。防災・減災講演会では、神戸大学名誉教授の室崎益輝氏をお招きいたしました。時間防災学セミナーでは秋田大学の田口岳志氏にお話しいただきました。また国際シンポジウム・セミナーとして、イギリスUCLとのシンポジウム、及び山口大学の国際同窓セミナーを開催いたしました。地域での活動としては、過去2年間実施した「まちの減災ナース育成研修」に関連して、アンケート・インタビュー調査を行ったほか、活動支援を目的とした「まちの減災ナース専用ページ」を開設しました。

地域レジリエンス研究センターのシンポジウムにおいても、防災・減災分野の活動報告等を実施し、多数のご参加を頂いております。今後も、地域レジリエンス研究センターの一翼を担う重要な組織として、継続的に活動して参ります。引き続きのご支援の程、宜しく願い申し上げます。

副グループ長（山口大学創成科学研究科工学系学域社会建設工学分野教授） 榊原 弘之